



# 神奈川県議会議員 守屋てるひこ 県政レポート

編集発行：守屋てるひこ事務所  
小田原市荻窪 317-1 イセトヨビル 2階  
電話 43-9918 FAX43-9917

## ◆任期最終年度を迎えて

平成 23 年に神奈川県議会議員選挙に初当選してから、早 3 年が経過しました。任期最終年となる今年度は、厚生常任委員会、ヘルスケア・ニューフロンティア政策調査特別委員会の所属です。

神奈川県の重要施策の一つに、ヘルスケア・ニューフロンティアがあります。これは「最先端医療・最新技術の追求」と「未病を治す」という 2 つのアプローチを融合することで、健康寿命日本一と新たな市場・産業の創出を目指すものです。

最先端医療・最新技術の追求というアプローチは、iPS 細胞に代表されるように、日本には世界をリードする基礎研究が多くあり、これを革新的な医療として実用化し、産業として育てるものです。もうひとつが、未病を治すというアプローチです。心身の状態は、健康か病気かという二つに分かれるものではありません。健康と病気の間には緩やかな変化の部分があります。これが未病という状態で、東洋医学には昔からある考え方です。いつまでも健康であるためには医食農同源の発想で、日ごろの生活習慣から未病を治していく必要があるのです。これらの政策は、わかりやすいようで、わかりにくいものです。常任・特別委員会の議論を通じて、県民の理解を深めてまいります。

## ◆県議会第 2 回定例会での一般質問

6 月 25 日に、一般質問に登壇しました。その概要は次のとおりです。

### (1) 県西地域活性化プロジェクト

県では、「未病を治す」をキーワードに県西地域活性化プロジェクトを策定し、今年 4 月にスター

トさせました。このプロジェクトは、人口減少社会、超高齢社会を迎え、県西地域が抱える課題に対する処方箋です。このプロジェクトを実施することによって、県西地域がどのような地域になっていくのか。また、この動きに賛同する企業、団体に対して県としてどのように支援していこうとしているのか質問しました。

知事からは、県西地域は未病を治すことが全て体験できる未病の戦略的エリアである。プロジェクトを実施することにより、県西地域が「未病を治す」、世界に冠たるエリアとなって活性化し、人口減少社会に対応するとともに、様々な世代が地域の魅力に惹きつけられ、住み続けていく、超高齢社会のモデルとなる地域になっていくだろう。

また、地域の活性化は、民間が参入し、持続的に活動することが必要であり、地元の本気度が前面にでてくる仕組みのものを支援していくとの答弁がありました。

### (2) 新たな観光の核づくり等促進交付金

新たな観光の核づくり等促進交付金は、昨年度の常任委員会で、私が提案した事業です。県西地域活性化元年となる今年度には、プロジェクト推進の起爆剤となる予算が必要です。通常、県の予算は事業費を積み上げるのですが、この事業は、まず、1 億円という予算を確保し、その後に関係市町村が事業を提案し、交付先を決定するという珍しいスタイルです。この点は私も高く評価しています。しかし、交付先・交付金額を決めるためのプレゼンテーションという手法や、その実施時期などについては改善の余地があると考えます。特に、この事業の対象には、県西地域だけでなく、

新たな観光の核づくり認定地域である、城ヶ島・三崎地域、大山地域、大磯地域も対象となっています。コンセプトが異なる事業を、なぜひとつにしたのか疑問がありましたので、この点を質問しました。

知事からは、新たな観光の核づくりと、県西地域活性化は、事業コンセプトは異なるが、地域をマグネット化し、ヒトやモノを呼び込んで、地域の活性化を図るという最終目標は同じであり、地域間の競争がアイデアを生み、事業を磨き上げる近道である。問われるのは、地元の本気度だ。また、プレゼンテーションを実施することによって、地元の「熱意」や、「やる気」が伝わってきたし、プレゼンに勝ち抜くという共通目標を生むことにより、提案にも磨きがかかったという地元の評価も耳にする。一方、実施時期やプレゼンの時間配分は検討していくとの答弁がありました。

初めての取り組みには、反省材料もありますが、次に活かしていくよう、これからも前向きな提案をしてみたい。しかし、小田原市への配分がゼロだったのは、誠に残念でした。



《本会議場での一般質問、後ろは下郡選出の向笠議長》

### (3)おだわら諏訪の原公園の整備

おだわら諏訪の原公園は、県西地域活性化プロジェクトにおいて、「ヘルスケアパーク」として位置づけられています。今年度の予算には基本計画策定費が盛り込まれませんでした。また、地域の方からは、諏訪の原公園にパークゴルフ場やドックランを整備してほしいとの要望も伺っております。そこで、今後の整備の取り組みについて質問しました。

知事からは、食につながる収穫体験の実施、体力

に応じて楽しく健康になれる運動器具の設置、花植えのボランティアなど、社会参加できる機会の提供などに、今年度から取り組む。今後の整備については、まずは、第1期区域について、平成28年度の完成を目指し。第2期区域については、ヘルスケアパークとして求められる、公園の機能について、地域の方々や公園利用者との懇談会など、様々な機会をとらえて、ご意見を伺いながら、計画づくりに取り組んでいくとの答弁がありました。



《おだわら諏訪の原公園 ※県ホームページから》

### (4)再生可能エネルギー等の導入加速化

県では、かながわスマートエネルギー計画を4月に策定しました。神奈川県においては、かながわソーラーバンクシステムや、県有施設の屋根貸しなどを実施し、また、地元小田原では、ほうとくエネルギー株式会社の設立や、ほうとくソーラー市民ファンドの立ち上げなど、全国を先導するような取り組みが行われています。そこで更なる加速化を求め、今後の取り組みについて質問しました。

知事からは、再生可能エネルギーのうち、県内の導入ポテンシャルが最も大きい太陽光発電の普及拡大に、引き続き重点的に取り組む。特に、従来の太陽光パネルが設置できない施設等に、薄くて軽い薄膜太陽電池の普及を図るプロジェクトを推進するとともに、特定の地域の多数の住宅に、同じ太陽光パネルを集中的に設置してコストダウンを目指すというモデル事業を実施するとの答弁がありました。

薄膜太陽光発電設備については、2年間で10億円もの巨額の県費を投じる事業です。第1回定例会でも大いに議論になりました。議会としても、その効果についてしっかりと検証してまいります。

## (5)人材が不足している分野の職業訓練

アベノミクスによる景気の好転や子育て施策の充実等により、建設、介護、保育の分野は人手不足の状況です。この分野の人材には、技能や資格が必要で、他業種から転職することは容易ではありません。そこで、建設、介護、保育分野における人材不足解消のための職業訓練のあり方について質問しました。

産業労働局長からは、離転職者を対象として訓練修了まで雇用保険を受給できる職業訓練を実施し、技能や資格の習得を支援していく。建設分野では、求人ニーズの高い型枠や鉄筋などの技能の習得訓練を、今年度中に職業訓練法人へ委託する。また、保育分野では、資格が取得できるよう、来年度から保育士養成施設への職業訓練の委託を行う。介護分野では、県の総合職業技術校において、介護福祉士などの養成に取り組むとの答弁がありました。

## (6)民俗芸能の保護

本県には、地域の伝統と風土を活かした様々な民俗芸能があります。私は、神奈川県議会文化芸術振興議員連盟の事務局長を務めておりますが、小田原民俗芸能保存協会や神奈川県民俗芸能保存協会との意見交換の中で、指導者の不足や、明日の活動を担う若者の不足、活動の場の不足、そして活動のPRの不足、さらには、安定的な財源の確保に苦労している、といった声を耳にしました。そこで、今後の民俗芸能の保護への取り組みについて質問しました。

教育長からは、神楽や人形芝居などの民俗芸能は、それぞれの地域の豊かな自然や歴史、文化の中で生まれ、世代から世代へと伝えられてきた県民の貴重な財産である。教育委員会では、その中で、時代的価値を有するなど特に重要なものを県指定無形民俗文化財に指定し、保護している。そして、その一環として、民俗芸能を守る活動に取り組んでいる団体に、伝承者を養成する事業などを対象とした財政的支援を行ってきた。民俗芸能の良さを多くの県民の皆さんに知っていただき、そして、民俗芸能を守る活動につなげていくことが大切である。今後、指導者の育成や、その魅力をPRする方法について検討していく、との答弁がありました。



《相模人形芝居 下中座 ※県ホームページから》

## ◆国際協力議員連盟によるマレーシア訪問

4月14日から20日まで、国際協力議員連盟の一員としてマレーシアのクアラルンプール、ボルネオを調査しました。訪問先は、マレーシア大使館、JICAクアラルンプール事務所、マレーシア・日本国際工科院、コタキナバル・サバ大学、ブンガラヤ自然保護区、ガヤ島マリネコロジーセンターです。

マレーシアは発展途上国でなく、すでに中所得国となり、2020年には先進国入りを目指しています。日本からの国際協力は、かつては社会インフラの整備が中心でしたが、近年は、障害者福祉や環境保全といった分野の協力が求められています。現地で活躍する青年・シニア海外協力隊員からは、現地での苦労や、帰国後の就職の問題などの話を聞くことができました。皆さん、日の丸を背負って頑張っているんだと胸が熱くなりました。

また、マレーシア・日本国際工科院はマレーシア工科大学の一部局で、日本の25大学・機関が支援しており、日本式の工学教育を実践しています。

ボルネオ島の自然環境破壊は、日本も原因者の一人です。日本が最大の消費国であるパームオイルは、その原料であるアブラヤシの大規模なプランテーションにより、森林伐採が進み、貴重な生物多様性が失われつつあります。豊かな自然環境の保全再生に果たす日本の役割に注目されています。



《JICAオフィス、マレーシア・日本国際工科院》

## ◆自民党政策プレゼンコンテスト

自民党本部青年局は、「夢と希望あふれる日本へ、わたしが描く処方箋」と題して、青年局世代からの政策提案を募集しました。これは全国一斉に行われる取り組みで、各都道府県連で地方大会を実施し、地方大会を勝ち抜いた方で全国大会を実施するというものです。

神奈川県連において、ホームページで提案を募集したところ、23の提案が寄せられました。そして書面審査により、8つの提案に絞り、7月5日に横浜開港記念会館で神奈川大会を開催しました。8つの提案のうち4つは出産・子育て支援、その他は、雇用、観光、都市農業、環境がテーマでした。どれも今の時代に必要な政策で、もっと、粗削りなものがあるかと思っておりましたが、具体的かつ実現可能性の高いものばかりでした。私は審査委員長という大役を仰せつかりましたが、真剣な政策プレゼンコンテストが開催できたと自負しています。政策は、政治家だけがつくるものではありません。皆さんの意見をしっかりと受け止めます。なお、優勝者は、塚本勇太さんの「大都市圏における地産地消の推進」でした。



《表彰式後に、政策提案者、審査員とともに》

## ◆自民党小田原市連合支部青年局設置

自民党小田原市連合支部は、6月8日に小田原市民会館で、平成26年度定期大会を開催しました。

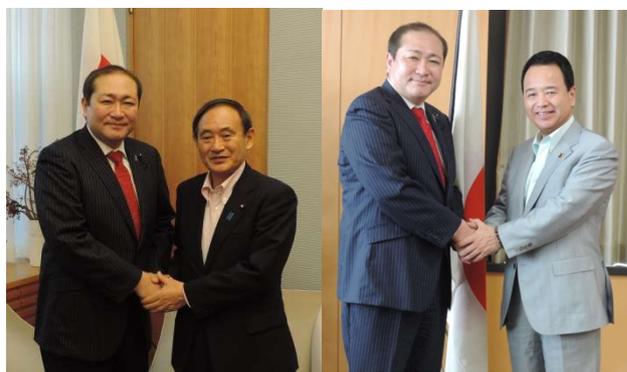
この数年は党员数も増加し、大勢の参加者を迎え盛大な大会を開催することができました。また党勢拡大のため、新たに青年局を設置し、青年局長に山田敏紀氏が選任されました。自民党は、地域に根差した政党として、常在戦場の心構えで、各種活動に取り組んでまいります。



《山田青年局長の就任あいさつ》

## ◆首相官邸訪問

7月15日に首相官邸を訪問し、安倍内閣の重要閣僚である、神奈川県選出の菅義偉内閣官房長官、甘利明経済再生担当大臣と面会しました。アベノミクスの効果は、神奈川にも着実に浸透してきているものの、県西部や三浦半島地域は、人口減少、地価下落、経済低迷に歯止めがかからず、危機的な状況にあることを説明しました。そのうえで、国家戦略特区に神奈川県全域が指定されたので、これを機に様々なアイデアを出していくので、国の強力な支援を要請しました。



《菅官房長官、甘利経済再生担当大臣と固い握手》

### 編集後記

最近、地方議会がマスコミに取り上げられる機会が増えています。政策を取り上げてくれるのであれば喜ばしいのですが、議員の不適切な言動が報じられてることは残念です。信用を得るには長い時間と地道な努力が必要ですが、信用を失うのはたった一言の言葉であったり、一瞬の行動です。改めて初心に立ち返り、皆様の負託に応えるべく、全力で県政の諸課題に取り組んでまいります。